



第20回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2022メイン事業

とリアートオペラ「ドン・ジョヴァンニ」公演



Wolfgang Amadeus Mozart

Don Giovanni

ドン・ジョヴァンニ

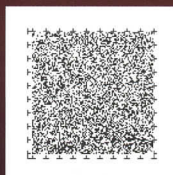
ロレンツォ・ダ・ポンテ台本

原語上演(字幕付き)

2022.8/28 日 14:00～ 開演

とりぎん文化会館梨花ホール

主催 / とリアートオペラ公演実行委員会 / 鳥取県総合芸術文化祭実行委員会
助成 / エネルギア・文化スポーツ財団 / 公益財団法人 花王 芸術・科学財団





鳥取県知事

平井 伸治

コロナ禍で、多くの困難を乗り越え、公演が実現！

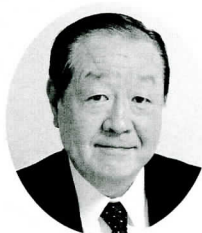
鳥取県総合芸術文化祭「とりアート」は、県民の皆様は文化芸術に親しみ、自ら取組んでいただく機会として、本県の文化芸術の振興や心豊かな生活につながる祭典として歴史を重ね、今年で第20回という節目を迎えることとなりました。

その記念すべき「とりアート2022」を飾るオペラ公演「ドン・ジョヴァンニ」が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。コロナ禍において、本公演は一年の延期を余儀なくされましたが、この度晴れて、様々な工夫を凝らしながら、多くの困難を乗り越え、公演が実現することとなりました。

「とりアート2022」の開催と本公演にご尽力された鳥取県総合芸術文化祭実行委員会及びとりアートオペラ公演実行委員会をはじめ関係各位に深く感謝申し上げます。

このたび上演されるオペラ「ドン・ジョヴァンニ」は、モーツァルトが作曲し、1787年の初演以来、世界中で上演されているオペラです。本公演には、ドン・ジョヴァンニ役の谷口伸氏をはじめ、国内外で活躍されているソリスト、合奏、合唱などで、多くの県民の方の力を結集され、今日の日まで話し合いや練習を重ねて練り上げられた素晴らしい作品に仕上がりました。是非とも多くの皆様に御鑑賞いただき、コロナ禍を忘れ心豊かなひとときを過ごしていただきたいと思います。

本公演が、本県の文化創造に新たな力を与えるものとなりますようお祈り申し上げますとともに、関係各位の御多幸と本公演の御成功を祈念申し上げます。



鳥取県総合芸術文化祭
実行委員会 会長

小谷 治郎平

オペラ公演を、とりアートのメイン事業として上演できる喜び！

本日は、第20回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2022メイン事業 オペラ「ドン・ジョヴァンニ」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

鳥取県総合芸術文化祭は、2002年の国民文化祭を契機に、文化祭で培われた県民の文化振興への気運の盛り上がりを継続、発展させるため開催しております。皆様のおかげをもちまして今年で20回目の記念すべき年を迎えることができました。“とりアート”という愛称も、県民の皆様は親しみあるものとして広まりつつあり、今後も県民誰もが気軽に文化芸術に触れ親しむことができる機会を提供し、さまざまな取り組みをもってその充実を図っていきたいと考えております。

さて、今年のメイン事業は、人々を魅了してやまない稀代のプレイボーイの華麗なる恋の遍歴と衝撃的な最期を描いた、モーツァルトの人気作「ドン・

ジョヴァンニ」。総合芸術と称されるオペラ公演を、この鳥取でとりアートのメイン事業として上演できることを大変喜ばしく思っております。

新型コロナウイルス感染症は文化芸術活動に大変大きな影響を及ぼしました。一方、この間に文化芸術の重要性や必要性が再認識され、改めて文化芸術のもつパワーや魅力を強く感じています。皆さまに未来への明るい希望をお伝えできれば幸いです。

最後になりましたが、本日の公演の開催にあたりご尽力いただきました皆様、そして何よりも本日来場いただいた皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

それでは、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。



とりアートオペラ公演
実行委員会 会長

計羽 孝之

コロナ禍を乗り越え、満を持してのオペラ公演！

鳥取県でオペラの灯を灯したいとの願いで、1998年、鳥取オペラ協会が設立され、毎年の公演を継続し、今年で24年目を迎えます。その間、とりアートオペラとしての公演は、2004年の「ボラーノの広場」2015年の「魔笛」、2018年の「ヘンゼルとグレーテル」、そして今回の「ドン・ジョヴァンニ」と4度目の参加となります。フルサイズのオペラ公演には、莫大な経費と人材が必要であり、何らかの大型支援が無い限り、公演は不可能であります。そんな中、他県では例を見ない鳥取県総合文化祭が開催され、メイン事業として大型企画が可能となり、地域在住の芸術愛好家たちが夢見た総合芸術「オペラ」の公演が実現できる喜びにひたっております。これは偏に文化立県を目指す行政の仏の手だと肝に命じております。

今回のオペラプロダクションは、鳥取オペラ協会が主管となり、練習会の要となるピアニストは鳥取ピアノ指導者協会

からの参加であり、オーケストラはプロ集団である「アザレア室内合奏団」に依頼しております。そして、今回の総合プロデューサーに「寺内智子氏」を起用し、とりアートオペラに新しい風が吹くことを期待しております。スタッフは、前回同様、日本を代表する方々であり、タイトルロールを歌う谷口伸氏は鳥取出身でドイツ・マイニンゲン国立歌劇場のスター歌手であります。そして、鳥取オペラ協会のベテランから新人まで総動員した陣容で、モーツァルトの傑作オペラ「ドン・ジョヴァンニ」をお届けしたいと思います。必ず皆様にお楽しみいただけるものと思います。

コロナ禍の中にあって、一年延期され、満を持してのオペラ公演となります。今回の公演が、県民の皆様にとって、魅力的で示唆に富み、新しい価値観の醸成となります様願っております。

Comment

西ドイツのドン・ジョヴァンニ（実話）

指揮者 大勝 秀也

あれは今から30数年前

私はボン歌劇場の指揮台でチェンバロを弾いていた。

第二幕クライマックス 墓場への舞台転換の間をアドリブを交えて繋ぐ。

奈落からドン・ジョヴァンニが現れ、亡霊となった騎士長と再会する有名な「地獄落ち」のシーンだ。

1、2分の転換後、緞帳が開いた。薄暗い照明に浮き上がった墓場に、彼は出てこなかった。何か事故でも起きたのだろうか？私はアドリブを駆使して、冷や汗をかきながら必死で場を繋いだ。

5分程の後（私には1時間にも感じられた）彼は息を切らして奈落から現れた。

公演は大成功に終わった。

カーテンコールから舞台袖に戻り、舞台監督に事情を尋ねた。ジョバンニ君の楽屋に何度もスタンバイコールを入れたが、舞台袖に来なかったようだ。舞台監督は、走って楽屋まで呼びに行った。楽屋のドアを開けると、そこにはテレビ画面に向かって大声で（バリトンの美声で）声援をおくるジョバンニ君の姿があった。

この事件は、3つの条件が重なったことで起きた。

- ①舞台監督からのコールが入る楽屋のスピーカーが故障していた。
- ②その日はサッカー W 杯決勝戦が行われた。

そして

- ③ジョヴァンニ君は無類のサッカーファンであった。

1990年のサッカーW杯は西ドイツがアルゼンチンを破り見

事優勝！ジョバンニ君の声援がひと役買ったかは定かではない。

今日の舞台スタッフの方々へ

楽屋呼び出しのスピーカーチェックをぜひお願いしたい。

そういえば、今年はサッカー W 杯の年だ。



Profile 東京に生まれる。東京音大卒業後、1988年ドイツに渡り、1991年ゲルゼンキルヒェン市立歌劇場第一指揮者、1994年よりボン市立歌劇場第一指揮者。1996年7月よりマルメ歌劇場音楽監督に就任。2006年6月／2007年5月ボリショイ劇場で「トスカ」を公演。2011年12月に金沢、高岡、翌年1月には新国立劇場で、泉鏡花原作、池辺晋一郎作曲の「高野聖」を初演。2012年10月大阪でフェラーリ作曲のオペラ「イル・カンピエロ」を上演。びわ湖ホールでは、2014年2月に「ホフマン物語」、2014年12月には「天国と地獄」、2015年12月にはドヴォルザーク「ルサルカ」を上演、好評を博した。また、2017年秋には全国共同制作オペラ「トスカ」を指揮、ドイツの薫り豊かな演奏が高く評価されている。現在、昭和音楽大学非常勤講師。

～時代の境目で窓際に佇むアマデウス～

オペラ演出 中村 敬一

現実の生活から逃れようとするかのように生きたドン・ジョヴァンニはどこから現れ、どこへ向かおうとしていたのだろうか。彼自身、向かうべき場所が見えていなかったのかもしれない。もっと先の自由な「時代」「時間」を目指していたのか。しかし、それは永遠に、訪れないのかもしれない。

終幕、晚餐に現れた騎士長の石像が、自分の生き方を変えようとしないうどん・ジョヴァンニを、業火で焼き、地獄の底へと引きずり込む。我々にとっては地獄もその業火も、そして神の裁きも死者の登場も荒唐無稽な展開かもしれない。結局の処、現代人にとってドン・ジョヴァンニの最期は、彼の内面の問題と罪の意識が自らを破滅へと駆り立ていくドラマと映るのではないだろうか。騎士長は彼の罪の意識が作り出した幻覚。燃えあがる地獄の業火は、彼が殺してしまった騎士長の流した血の海、或いはたくさんの女たちの流した涙かもしれない。

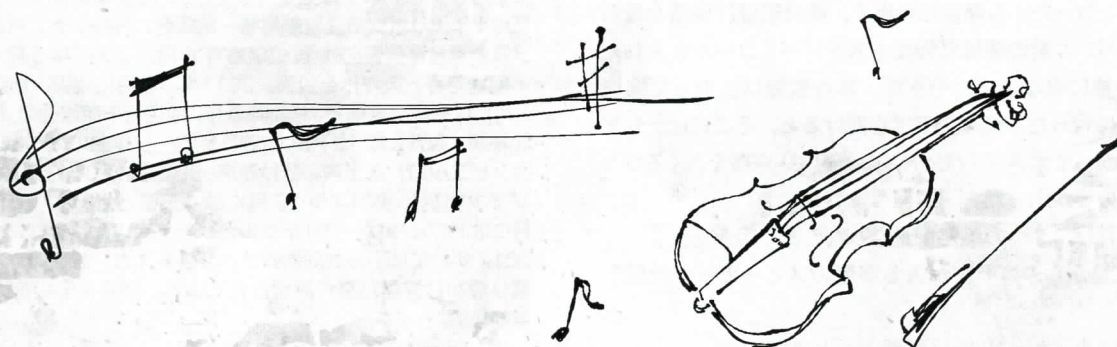
「ドン・ジョヴァンニ」はモーツァルトの他のオペラ・ブッフ「フィガロの結婚」や「コシ・ファン・トゥッテ」と同じ、古典派の喜劇の様式にのって書かれ、古典派オペラの在り方を極めてい。しかし実は窓の向こう側には、既にロマン派の景色が見え隠れしているのだ。「シュトゥルム・ウント・ドラング」(疾風怒濤のロマン派)の風が、その窓から激しく吹き込んでいる。彼の見たロマン派の景色は、その窓の風景が実相であるかと思わせるほどのリアリティを、舞台の上に繰り広げる。この「アンバランス」がモーツァルトのオペラの魅力であると同時に



By Keiichi KIMURA

に、罫でもあるのだ。様式の規りを越えずに、その先を描いてしまったアマデウス。我々はロマン派の先の現代という時代から、冷静に窓の中に佇むモーツァルトの微笑みの意味を探らねばならない。それが、演出家に求められる責任だと感じている。

Profile はじめ声楽家を志し、武蔵野音楽大学同大学院で声楽を専攻、後、舞台監督集団「ザ・スタッフ」に所属してオペラスタッフとして活躍。以後、鈴木敬介、栗山昌良、三谷礼二、西澤敬一各氏のアシスタントとして演出の研鑽を積む。1989年より、文化庁派遣在外研修員として、ウィーン国立歌劇場にて、オペラ演出を研修。帰国後、「フィガロの結婚」で、高い評価を得、続く二期会公演「三部作」、東京室内歌劇場公演「ヒロシマのオルフェ」、2000年3月には新国立劇場での「沈黙」が、高く評価される。2001年「ヒロシマのオルフェ」では、大阪舞台芸術奨励賞を受賞。鳥取オペラ協会公演の台本も手がけ、「ボラーノの広場」は注目された。国立音楽大学客員教授、洗足学園音楽大学客員教授、大阪音楽大学客員教授、大阪教育大学講師、沖縄県立芸術大学講師。



ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
原語上演

ドン・ジョヴァンニ

指揮／大勝 秀也

演出／中村 敬一

管弦楽／アザレア室内合奏団

2022(令和4)年8月28日(日) 14:00 開演
鳥取県立とりぎん文化会館梨花ホール

STAFF

指揮……………大勝 秀也
演出……………中村 敬一
ディクション……………小鉄 和広
コレペティ……………梁川 夏子
美術……………増田 寿子
照明……………榎木 実
衣裳……………下斗米大輔
音響……………小野 隆浩
大道具……………(株)スタッフユニオン
照明操作……………(株)大阪共立 (株)つむら工芸
ヘアメイク……………きとうせいこ
映像……………荒井 雄貴
舞台監督……………山中 舞
副指揮……………新倉 健・土師 吉貴
合唱指導……………鶴崎 千晴・尾前加寿子・小椋美香子
舞踏振付……………佐分利育代
練習ピアノ……伊賀奈ゆり・稲毛 麻紀・西川 広美・
新田恵理子・綿口裕美子
舞台演出助手……………はまべゆかり
プロデューサー……………寺内 智子
オーケストラ・マネジメント……………辺見 康孝
練習マネージャー……………谷岡 弘栄

CAST

ドン・ジョヴァンニ……………谷口 伸
騎士団管区長……………小山 雅彦
レポレッロ……………和田 央
ドンナ・エルヴィーラ……………寺内 智子
ドンナ・アンナ……………松田 千絵
ツェルリーナ……………佐々木まゆみ
ドン・オッターヴィオ……………中川 正崇
マゼット……………山田 康之
村人(合唱)……………とりアートオペラ合唱団
村人(舞踏)……………鳥取県洋舞連盟
アンダースタディ……………
尾前加寿子・小椋美香子・竹内 美咲
オーケストラ……………アザレア室内合奏団

■企画・制作 とりアートオペラ公演実行委員会

□総合プロデューサー／音楽監督 寺内 智子

□ポスター・チラシ・プログラム編集委員

尾坂 俊恵・鈴木百百子・計羽 孝之

□写真／小矢野 貢

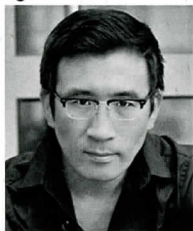
□広報映像／里田晴穂

□デザイン／計羽 孝之

□印刷／山本印刷株式会社

Cast Profile

ドン・ジョヴァンニ／谷口 伸



鳥取東高等学校、慶応義塾大学文学部卒。日本音楽コンクール入選を始めとする国内主要コンクール、海外では、国際シューマンコンクール第3位、デビュー・イン・メラン国際コンクール総合優勝等、数々の受賞歴を持つ。1998年よりウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ学科に学び、2002年同科を最優秀で卒業。2005年よりゲルリッツ市立劇場、2010年よりツヴィッカウ市立劇場、2018年からはマイニンゲン国立劇場と専属契約を結び、新聞紙上等で常に高い評価を得る。またNHK交響楽団第九演奏会出演等、コンサート歌手としても活躍。

レボレッロ／和田 章



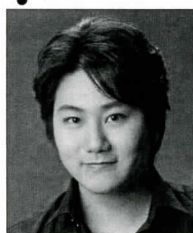
国立音楽大学大学院修了。BMA 英国音楽コンクール2021、最高位受賞。第24回「長江杯」国際音楽コンクール、優秀賞。院修了時にベンジャミン・ブリテンのオペラ《ビリー・バッド》のビリー・バッド役を演じる。その他にも《コジ・ファン・トゥッテ》、《ドン・ジョヴァンニ》レボレッロ、騎士長、《フィガロの結婚》、《愛の妙薬》、《ジャンニ・スキッキ》、《ヘンゼルとグレーテル》、《椿姫》召使い役など、様々なオペラ作品に出演。オペラの他にもドイツ歌曲、英国歌曲などのレパートリーを持つ。隠岐速人、宮西一弘、吉田浩之、黒田博に各氏に師事。

ドンナ・アンナ／松田 千絵



鳥根大学教育学部特音課程声楽専攻卒業。白石由美子、藤井文子、中澤桂、平野弘子の各氏に師事。これまでに鳥取オペラ協会公演「フィガロの結婚」「魔笛」「ボラーノの広場」「ドン・ジョヴァンニ」「アマルと夜の訪問者」「コシ・ファン・トゥッテ」に出演。ヘンデル「メサイア」、J.ラター「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」のソリストをつとめる。鳥取県声楽オーディション審査員特別賞奨励賞、第16回日本声楽コンクール入選。鳥取オペラ協会理事、コールおまかげ、こーらす萌の会指揮者。

ドン・オッターヴィオ／中川 正崇



大阪音楽大学大学院オペラ研究室、新国立劇場オペラ研修所第8期研修生を修了。文化庁新進芸術家海外留学制度在外研修員としてイタリア・フィレンツェへ留学。「ドン・ジョヴァンニ」「ドン・オッターヴィオ」で、オペラデビュー。「愛の妙薬」ネモリーノ、「ドン・パスクワレ」エルネスト、「清教徒」アルトゥーロ、「椿姫」アルフレード、「魔笛」タミーノなど多数のオペラに出演。第二回「日本のうたコンクール」第一位。西垣俊朗氏、渡邊弓子氏に師事。大阪音楽大学講師。神戸音楽家協会、西宮音楽協会、東京二期会、関西歌曲研究会、各会員。

ドンナ・エルヴィーラ／寺内 智子



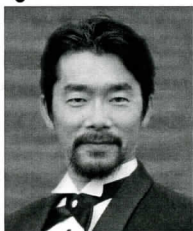
大阪音楽大学音楽専攻科声楽専攻を修了後イタリアへ留学。同地にてオペラ「ラ・ボエーム」ミミ役、「カプレーティ家とモンテッキ家」ジュリエッタ役を歌い好評を得る。オペラでは「フィガロの結婚」「愛の妙薬」「魔笛」「エフゲニー・オネーギン」「ヘンゼルとグレーテル」他に出演。第九、メサイア、レクイエムのソリストも務める。第29回イタリア声楽コンクールソノ賞、第20回飯塚新人音楽コンクール文部大臣賞等多数受賞。大阪フィルハーモニー交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団とも共演。天野春美、E・ラッティー各氏に師事。鳥取オペラ協会副会長、鳥取市民合唱団ボイストレーナー。

ツェルリーナ／佐々木 まゆみ



昭和音楽大学音楽学部声楽学科卒業、同大学音楽専攻科首席修了。修了時学長賞授賞。「バステアンとバステイアンヌ」、「フィガロの結婚」、「イソップ物語」、「春香」、「魔笛」などに出演。その他、第九ソリストやソロリサイタル等で精力的に活躍中。2006年よりアザレア音楽祭出演している。これまでに生原幸枝、越賀理恵、田野崎加代、田島祥恒、平野弘子各氏に師事。とつりの芸術宅配便講師、Meary'sメンバー、鳥取オペラ協会会員。

マゼット／山田 康之



鳥取大学教育学部卒業。西岡千秋氏に師事。1996年、鳥取オペラ研究会公演「河童譚」「子うさぎましろのお話」に出演。1998年、アザレアのまち音楽祭バリトン・ソロコンサートに出演。オペラ出演はこれまで「コシ・ファン・トゥッテ」のグリエルモ役、「フィガロの結婚」では二度のタイトルロールを歌い、「魔笛」ではパパゲーノ役をこなした。国民文化祭とつとり2002オペラ「ボラーノの広場」公演においてテモ役を歌い高い評価を得てきている。「アマルと夜の訪問者」でメルキオール役、「こうもり」でアイゼンシュタイン役を歌い好評を博した。現在、赤碕小学校に勤務。鳥取オペラ協会理事。

騎士団管区長／小山 雅彦



岡山大学工学部卒業。岡山大学大学院工学部修了。合唱団優喜に所属。中国二期会公演「笠地蔵」、鳥取オペラ協会公演「ボラーノの広場」「アマルと夜の訪問者」に合唱参加。TOTTORI LIVE YELLの「クラシック×演劇」第2部にドン・ジョヴァンニの騎士長役で参加。

Profile

副指揮者

にいくら けん
新倉 健



1951年神奈川県生まれ。作曲を福島雄次郎、金光威和夫の両氏に師事。主要作品にオペラ「ボラーノの広場」「ウィンドーズ」、「Madrigal」、「Gong Ekasama Budaya」、「音の絵本Ⅰ～Ⅹ」がある。又、NYタイムズにより高評され、ニューヨークを皮切りに米国各地で演奏された「広島が言わせる言葉」をはじめ、「ギターターンジャリ（ドイツで出版）」、「歌の祭り（オランダで放送）」など、その作品は海外でも高い評価を得ている。現在、鳥取大学名誉教授。

はじ よしたか
土師 吉貴



中学校・高等学校で吹奏楽部に所属し、トロンボーンを担当。作曲・指揮を独学。各種器楽曲や声楽曲の作編曲、吹奏楽団や合唱団の指揮をおこなっている。主な作品に「バガテルハ短調（吹奏楽のための）」、「ソプラノ、ヴァイオリン、ピアノと朗読のため『幸福の王子』」、「ソプラノ、ピアノと朗読のため『ツグミの髭の王様』」などがある。

練習ピアノ

いがな ゆり
伊賀奈 ゆり



東京音楽大学音楽学部音楽学科ピアノ専攻卒業。（故）西川妙子、（故）海老原直美、平賀寿子の各氏に師事。第6回カウベルピアノコンクール本選優秀賞受賞。第1回鳥取県人材発掘オーディションにおいて審査員特別奨励賞受賞。後進の指導にあたりとともにソロコンサート、声楽、器楽の伴奏等の演奏活動を積む。鳥取ゾリステン会員。コールおもかげピアニスト。

につた えりこ
新田 恵理子



武蔵野音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業 倉吉市在住。ピアノを故西岡光夫、長井充、徳川愛子、福井直敬、西川秀人の各氏に師事する。ソロリサイタル、室内楽、声楽・器楽の伴奏など、各地で幅広い演奏活動を行なっている。内外のオーケストラとの共演も数多く、そのうち、ザルツブルク室内オーケストラ、下北山弦楽オーケストラとのライブ録音が、カウベルホールよりCDリリースされている。後進の育成にも力を注ぎ、各地で門下出身の若手ピアニストが活躍している。全日本ピアノ指導者協会正会員、同鳥取県支部支部長、鳥取オペラ協会ピアニスト。ハーモニッシュの会主宰。

いなげ まき
稲毛 麻紀



武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業後、お茶の水女子大学大学院ピアノ演奏学講座修了。ピアノを新田恵理子、堺康馬、A.ウェーバー・ジッケ、西川秀人、吉田征夫、浅井道子の各氏に師事。これまでにアザレアのまち音楽祭のオープニング・コンサートやサロンコンサート等に出演。現在、わらべ館童謡唱歌推進委員、鳥取短期大学非常勤講師を務める。コール・ウィンドミル、こーらす萌の会、合唱団こさじ、倉吉ユースクワイア“にじ”、鳥取オペラ協会ピアニスト。

わたくち ゆみこ
綿口 裕美子



静岡大学教育学部芸術文化課程音楽文化専攻卒業。第20回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選。第5回日本ピアノ研究会東海Cピアノ・オーディションにて準グランプリ、静岡市長賞受賞。ピアノを小林峯介、根本真理子、武知朋子の各氏に師事。現在、歌唱・器楽の伴奏を中心に音楽活動を行うほか、後進の指導にあたっている。

にしかわ ひろみ
西川 広美



武蔵野音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。ピアノを故木村正子、故青山三郎、重松聡、熊井千恵美、西川妙子、平賀寿子の各氏に師事。現在、後進の指導にあたりほか各種伴奏、演奏活動を行っている。第23回日本ピアノコンクール全国大会特別賞。音楽家集団「クラヴィーナ」、鳥取シンセオーケストラ所属。鳥取市少年少女合唱団、コールやまびこ。

オーケストラ アザレア室内合奏団

アザレア室内合奏団は、アザレア音楽祭のオープニング・コンサートのために編成された若いプロ奏者によるオーケストラです。コンサートマスターに辺見康孝氏を迎え、山陰及び関西で活動する奏者を厳選し、オペラ公演に添った編成としています。とりアートオペラ 2018「ヘンゼルとグレーテル」のオーケストラを担当し、ハイレベルな演奏が絶賛されました。



コンサートマスター

辺見 康孝



Profile

日本をはじめヨーロッパ諸国、オーストラリア、アメリカ合衆国、メキシコ、南アフリカ共和国、韓国、香港で演奏活動を行っており、様々な国際音楽祭に招待されている。ベルギーの現代音楽アンサンブル Champd'Action の元ヴァイオリニスト。松村多嘉代（ハープ）とのデュオ、X[iksa]（イクサ）では新たな境地を開拓している。2012年には日本人初のジョン・ケージ『フリーマン・エチュード』全32曲リサイタルを日本現代音楽協会主催で行い話題となった。Megadisc（ベルギー）からリリースされたソロCD、数々のX[iksa]アルバムの他、多数のCD録音に参加している。

オーケストラメンバー

コンサートマスター／辺見 康孝

フルート／本田 桂子・柳楽小百合

オーボエ／辨天 芳枝・中村 希

クラリネット／杉山 清香・檜崎 誉

ファゴット／木村 恵理・岡本 真弓

ホルン／中橋 慶子・米崎 星奈

トランペット／肥後 徹士・講崎 里穂

トロンボーン／山田 貴之・小林 千佳

寺谷 糧

ティンパニ／葛西 友子

1st ヴァイオリン／辺見 康孝（マンドリン兼）

高田 春花・三浦裕梨香

藤岡佐恵子・赤松 由夏

玉木 龍馬

2nd ヴァイオリン／柳楽 毬乃・山森 温菜

吾藤 早桜・増田 紗英

梶原 千聖

ヴィオラ／坪之内裕太・木田 奏帆

原田 詩穂・安藤 歌那

チェロ／大西 泰徳・芝内あかね

谷口 晃基

コントラバス／永瀬 未希・小島琳太郎

尾崎 果苗

チェンバロ／新田恵理子

合唱

とりアートオペラ合唱団 合唱指導／

鶴崎 千晴・尾前加寿子・小椋美香子
ソプラノ／尾前加寿子・小椋美香子・中原 美幸
吉田 美恵・古市あゆみ
アルト／鶴崎 千晴・竹内 美咲・米澤 幸
押村栄理子・阪本いづみ
テナー／中田 達也・小林 誠
バス／山代 豊・原田 知巳・加藤 翔太



ダンス

鳥取県洋舞連盟 舞踏振付／佐分利育代

田中 悦子（エルヴィラ侍女）
河上真由子・得能 恵子・得能 舞子
井上 陽子・三谷さやか・安岡 幸子



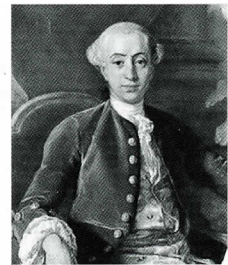
アンダースタディ

尾前加寿子・小椋美香子・竹内 美咲

ドン・ジョヴァンニ あるある…

「ジャコモ・カサノヴァ」がモデル!?

史上最強のプレイボーイ＝ドン・ジョヴァンニには、モデルがいたのです。イタリアで640人、ドイツで231人、スペインで1003人の女性をモノにしたかどうかは解りませんが、当たらずとも遠からずのプレイボーイだった「ジャコモ・カサノヴァ」がその人だといわれます。彼は、1725年ヴェネチア生まれであり、生涯、多くの女性と関係を持ったようですが、ただの女たらしということではありません。当時の知識人からは高い評価を得ていたカサノヴァは、その有能さを如何なく発揮していたようです。彼はドン・ジョヴァンニの台本作家ロレンツォ・ダ・ポンテとも知り合いであり、このオペラの台本作成を手伝っていたようです。そして、オペラ「ドン・ジョヴァンニ」の初日には、当然観劇していたとのこと。

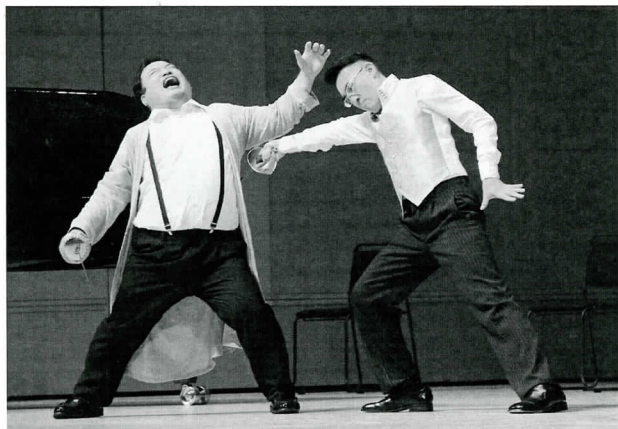


ジャコモ・カサノヴァ

ツェルリーナ、口説かれ上手のテクニック!

村娘の結婚式の披露宴会場に現れたドン・ジョヴァンニが、花嫁ツェルリーナを誘惑する場面がある。ここでは口説きの歌の極致が聴ける。こんな風に口説かれたら抵抗できるはずがない、と思えるくらい。実際にツェルリーナはその気になって、イエスというまで瞬く間である。モーツァルトの歌は、さらに深い誘惑の歌を含んでいるように思える。ドン・ジョヴァンニが口説いているのだが、そう見えて、誘われているツェルリーナが、実はジョヴァンニを誘っているのだ。誘惑の歌は、いつの世も深いものだ。村娘ツェルリーナこそ、主役をしのぐ誘惑の達人かも知れない。誘惑される女は誘惑する女でもあると言われるが、新婚の夫マゼットにドン・ジョヴァンニとの仲を疑われたツェルリーナは、二度にわたって夫をまるめこむ。「ぶってよ、マゼット」と「菓屋の歌」こそ、このオペラの本当の誘惑の歌かも。オペラの中で、ドン・ジョヴァンニは、ドンナ・アンナ、ツェルリーナ、エルビラの侍女の誘惑に失敗するが、ツェルリーナはマゼットを難なく元の鞘に納めてしまう強かさがあるのだ。因みに、ベートーヴェンは、「ドン・ジョヴァンニ」を不道德なオペラだと毛嫌いしていた。しかし、まじめな話のベートーヴェンの「フィデリオ」よりも、不道德なオペラの方が、より面白いのだ。

「ドン・ジョヴァンニ」のこと 計羽 孝之



オペラ「ドン・ジョヴァンニ」は、17世紀のスペインにおける伝説上の人物で、愛の遍歴者として多くの文学作品に登場するドン・ファンを題材にした物語です。モーツァルトの三大オペラと言われ、世界中で公演され続けている不朽の名作オペラです。女たらしで極悪非道である貴族のプレイボーイの物語が、何故、世界中で持てはやされるのか？それを観客に納得させるには、役柄に対する考察力、それを表現することの出来る演技力、歌唱力が求められるのです。この難しい主役のドン・ジョヴァンニ役に、かねてから出演を切望していた「谷口 伸氏」の起用は外せません。氏は、現在ドイツのマイニンゲン国立歌劇場専属歌手として活躍中であり、このオペラを成功に導くためにはなくてはならない存在であります。世界で活躍する鳥取県の生んだオペラ歌手を、同郷の皆様に観て頂きたいのです。

さて、日本文学に登場するプレイボーイと言えば紫式部の「光源氏」です。身分が高く、裕福で、正妻がいるにも拘らず、女とみれば言い寄り、相手が拒んでも無理やり思いを遂げてしまう強引さ、自信にあふれ、遠慮も後悔もしないのは同じです。しかし、違うところは、ドン・ジョヴァンニは本意ではなかったにしろ、夜這いに行った先で娘の父親を殺害し、その亡霊に、改心を求められても決然とNo!!と言い放ち、自らの生き方を信じて貫く態度を示し、地獄に落ちていくのです。

オペラ公演の目的

これはモーツァルトの生きた時代、つまりフランス革命という激動の時代背景と啓蒙思想によるフリーメイソンの台頭の影響があります。ダ・ポンテもモーツァルトもフリーメイソンのメンバーであり、このオペラの中で「人間の生き方」としての「道徳」、「理想」を追求することと、「人間の業」との矛盾する問題を、

フリーメイソンの信条である自由・平等・博愛を忍び込ませながら解き明かそうとしています。またこのオペラには三人の女性が登場しますが、いつの時代にも共通する女性ならではの苦しみや悩み、そして愛が描かれております。悩める女性の気持ちをモーツァルトの天賦の才により、上品で崇高なものへと昇華させているところも聞きどころであり、聴衆の共感を得つけています。特権階級の横暴を象徴するオペラ「ドン・ジョヴァンニ」は、勧善懲悪の中で崩壊していきますが、そのテーマは現代にも通じるものです。

オペラは常に社会を映す鏡でした。特にモーツァルトのオペラが今日でも愛され続けるのは、人類の希求する普遍的なものを創造したからであり、社会を大きくリードしてきたデモクラシーの力（王侯貴族の特権を排除し、打ち砕く意思の発露としての行動力）の根源でもあったからです。



鳥取オペラが取り組む訳

鳥取オペラ協会では、2003年にRAKUGOPERA「ドン・ジョヴァンニ」として公演した経緯があり、今回の公演は18年ぶりとなる全曲原語上演として、本格的な取り組みを目指しました。鳥取県に於いては、芸術文化の力を活かした豊かな地域社会を作り上げる事に成功しつつあります。先回のオペラ「ヘンゼルとグレーテル」の公演においても聴衆から多大な賛辞を頂戴し、大成功を収めました。この「ドン・ジョヴァンニ」も必ず聴衆の心を魅了し、記憶に残り続ける公演になると自負しています。沢山の方々が、幸せとは何かをつかみ、明日を生きるエネルギーを身体いっぱい満たし家路につく、そのようなオペラ公演を根付かせる活動は、県民の民主化率（自由度）を高め、創造的で心豊かな日常を営むこととなり、鳥取県総合芸術文化祭の使命を全うすることにつながるものと思います。



あらすじと登場人物

このオペラは、「罰せられた放蕩者」との副題を持つ、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルトが作曲したオペラ・ブッフアです。1787年10月29日に初演された記録があり、今から235年前のことです。

台本は『フィガロの結婚』と同じ、ロレンツォ・ダ・ポンテが書いています。「ドン・ジョヴァンニ」は、スペインの伝説的な貴族で放蕩者であるドン・ファンの物語なのです。ダ・ポンテは、この物語をオペラ化するにあたり、既に舞台化されていたベルターティやモリエールの『ドン・ジュアン』（1665年）を参考にしたといわれています。また、キーパーソンとなる「ドンナ・エルヴィーラ」のキャラクターは、モリエールからの引用だといわれています。

この作品は、オペラ・ブッフアと言われていますが、一概に決めつけることは出来ないようです。その理由は、第2幕の最後に置かれたドン・ジョヴァンニの「地獄落ちの強烈な音楽」や、エルヴィーラの執拗な行動とその音楽に、喜劇らしからぬ悲劇性があるからだといわれているのです。さて、物語に登場してくる役どころは、次の様なキャラクターです。

役どころ

ドン・ジョヴァンニ Don Giovanni (バリトン) 女たらしの貴族。従者のレポレッロの記録によると、各国でおよそ2000人の女性と関係を持ったという。老若、身分、容姿を問わぬ、自称「愛の運び手」。剣の腕もたち、騎士団長と決闘して勝つほど。

レポレッロ Leporello (バス) ジョヴァンニの従者。ドン・ジョヴァンニにはついていけないと思っているが、金や脅しですでずるついていく優柔不断な男。美人の妻を持つ妻帯者だが、ドン・ジョヴァンニの「おこぼれ」にあずかり楽しむこともある。

ドンナ・アンナ Donna Anna (ソプラノ) 騎士長の娘でオッターヴィオの許嫁。ドン・ジョヴァンニに夜這いをかけられ、抵抗したところに駆けつけた父親を殺される。

騎士団管区長 Il Commendatore (バス) アンナの父。娘を救おうとしてジョヴァンニに殺されるが、石像として彼に悔い改めるよう迫る。

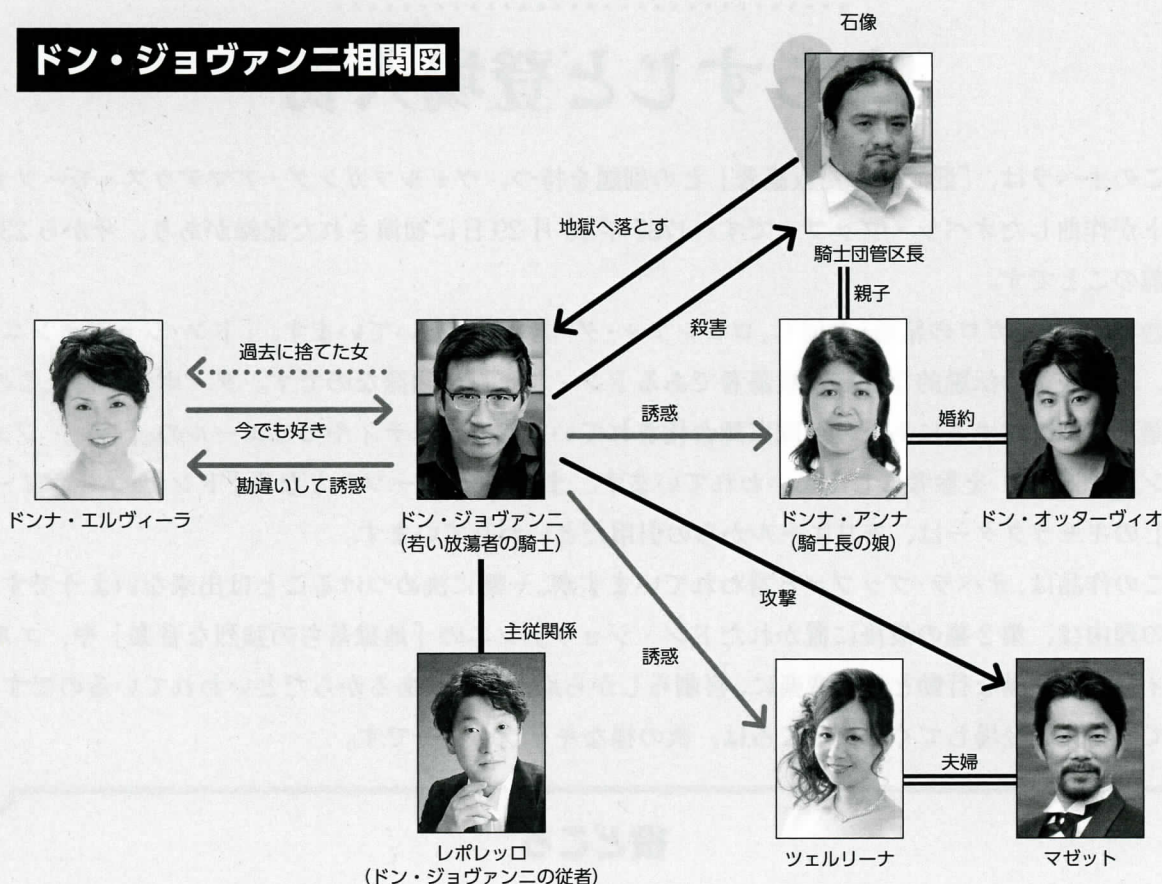
ドン・オッターヴィオ Don Ottavio (テノール) アンナの許婚。復讐は忘れて結婚するようドンナ・アンナを説得しようとするが、果たせない。

ドンナ・エルヴィーラ Donna Elvira (ソプラノ) かつてジョヴァンニに誘惑され、婚約するもその後捨てられた女性。始終ジョヴァンニを追い回し、彼を改心させようと試みる。元は身分ある女性だったようで、ドンナ・アンナたちも圧倒されるほど気品に溢れている。ドン・ジョヴァンニが食指を動かすほど美しい召使を連れている。

ツェルリーナ Zerlina (ソプラノ) 村娘でマゼットの新婦。田舎娘に似合わずコケティッシュでしたたかな娘。結婚式の最中にドン・ジョヴァンニに口説かれ、その気になる。

マゼット Masetto (バス) 農夫。ツェルリーナの新郎。嫉妬深く、ツェルリーナの浮気な行動にやきもきするが、結局のところ、尻に敷かれている。村の若者のリーダー的存在。

ドン・ジョヴァンニ相関図



あらすじ

第1幕

○幕が開く。時間は明け方。場面はセビーリャ市内、騎士長の邸宅の前で、従者レボレッロはこんな主人に仕える仕事はいやだとぼやいている。ドン・ジョヴァンニは騎士長の娘であるドンナ・アンナの部屋に忍び込んだが、彼女に騒がれ逃げようとした。そこへ騎士長が登場し、ジョヴァンニに斬りかかるが逆に殺される。アンナは悲嘆に暮れ、許嫁のオッターヴィオに復讐を果たしてほしいと求める。

○騎士長宅から逃れたジョヴァンニがレボレッロを見つけたところで、昔棄てた女のドンナ・エルヴィーラに見つかってしまう。しかしジョヴァンニはその場をレボレッロに任せて去る。残されたレボレッロはエルヴィーラに「旦那に泣かされたのはあんただけじゃないよ。イタリアでは640人、ドイツでは231人、しかしここスペインでは何と1003人だ。」と有名な「カタログの歌」を歌って慰めたつもりになっている。あきれてエルヴィーラは去る。

○場面が変わり、マゼットとツェルリーナの新郎新婦が村の若者とともに登場し、結婚の喜びを歌っているところにジョヴァンニが現れる。早速、新婦ツェルリーナに目をつけた彼は、彼女と二人きりになろうとして、皆を自宅に招待して喜ばせる。彼がツェルリーナを自らエスコートしようとするので、マゼットは拒むが、ツェルリーナ自身が大丈夫だと言い、ジョヴァンニが剣をちらつかせるので、マゼットはしぶしぶ引き、ツェルリーナに皮肉を言って去る。その彼女を早速ジョヴァンニが口説く「お手をどうぞ」のデュオ。ツェルリーナはあっけなく彼に手を取られて屋敷に向かおうとするが、そこに再び現れたエルヴィーラが、ジョヴァンニの本性を警告して彼女をジョヴァンニから逃す。

○「今日はついてないな」とぼやくジョヴァンニの前に、騎士長の仇への復讐を誓っているオッターヴィオとアンナが登場する。しかしアンナは今朝忍び込んで父親を殺した者が目の前のジョヴァンニだとは気づいていない。ジョヴァンニは適当にごまかしてその場を去るが、彼の別れ際のひとことを聞いて、アンナはジョヴァンニが今朝の男だったと気づく。オッターヴィオはまだ半信半疑である。

○場面は変わってジョヴァンニの屋敷。彼は招待客に酒や料理を振る舞い、「皆で元気に酒を飲み、おれはその間にカタログの名前を増やすのだ」という「シャンパンの歌」を豪快に歌う。

再びマゼットとツェルリーナが登場。マゼットは新婦ツェルリーナが軽薄で浮気者だと怒っている。しかし新婦は「ぶってよ、私のマゼット」と下手に出て機嫌を取るの、単純なマゼットはすぐに機嫌を直す。そこにエルヴィーラ、アンナ、オッターヴィオが、ジョヴァンニの罪を暴くため、仮面をつけてやってきて、祝宴に紛れ込む。みんなでダンスをしているとジョヴァンニはツェルリーナを別室に連れて行く。襲われて悲鳴をあげる彼女。それをきっかけに3人は仮面を脱ぎ捨て、ジョヴァンニを告発する。彼は、レポレッロを、ツェルリーナを襲った犯人に仕立ててごまかそうとするが、もはや誰もだまされない。ジョヴァンニは窮地に陥るが、大混乱の内に隙をみて、レポレッロと共に逃げ出し、第1の幕が降りる。

第2幕

○夕方。レポレッロが主人にばやいている。「もうこんな仕事はいやだ、お暇をもらいたい」というのだが、最終的には金で慰留されてしまう。さて今夜のジョヴァンニはエルヴィーラの女中を狙っており、女中に近づくためにレポレッロと衣服を取り替える。ちょうどその時、エルヴィーラが家の窓辺に現れたので、ジョヴァンニはレポレッロをエルヴィーラの家の前に立たせて自分のふりをさせ、自分は隠れた所から、いかにも反省したような嘘をつく。エルヴィーラは、ジョヴァンニが自分への愛を取り戻してくれたものと信じきって、ジョヴァンニに扮したレポレッロに連れ出される。一方、レポレッロに扮したジョヴァンニは、エルヴィーラの部屋の窓の下で、女中のためにセレナードを歌う。

○そこにマゼットが村の若い衆とともに登場する。皆、棍棒や銃を持ち、これからジョヴァンニを殺すのだという。これを聞いたジョヴァンニは、レポレッロの振りをして皆をあちこちに分散させ、自分とマゼットだけになると、剣の峰でマゼットを打ち据えて去る。

○痛がるマゼットのもとにツェルリーナがやってきて、「そんな痛みはこの私が治してあげるわ」といって慰め、マゼットの手をとって自分の胸に当てる。すっかりその気になって痛みも忘れた新郎と、いそいそとその場を去る。

○一方、エルヴィーラと思わぬデートをする羽目になったレポレッロは、何とかごまかして彼女から離れようとするものの、運悪くアンナとオッターヴィオに出くわしてしまう。逃げようとする、マゼットとツェルリーナにも鉢合わせしまう。彼がジョヴァンニだと思っている4人は彼を殺そうとするが、エルヴィーラが現れてジョヴァンニのために命乞いをする。4人は、ジョヴァンニを恨んでいたはずのエルヴィーラが彼の命乞いをすることに驚くが、ジョヴァンニ（実はレポレッロ）のことを許そうとはしない。命の危険を感じたレポレッロはついに正体を白状し、一同は呆れる。レポレッロは平謝りしつつ隙をみて逃げ出す。

○真夜中の2時、墓場でレポレッロと落ち合ったジョヴァンニに対し、騎士長の石像が突如口を開く。恐れおののくレポレッロと対照的に、ジョヴァンニは戯れに石像を晚餐に招待すると言い出し、石像はそれを承諾する。

○オッターヴィオはアンナに結婚を迫るが、アンナは父親が亡くなったすぐ後なので今は適当な時期ではないという。オッターヴィオは非礼を詫げるが、これはアンナにオッターヴィオの真実の愛と誠実さを確信させアンナのアリアへとつながる。

○ジョヴァンニは早速屋敷で食事の支度を始める。楽士が流行の音楽を演奏している。当時知られていた他の作曲家のオペラの一節に続いて、『もう飛ぶまいぞ、この蝶々』が演奏されたりする。

○晚餐が始まり、ジョヴァンニは旺盛な食欲を示してレポレッロに呆れられる。つまみ食いしたレポレッロをジョヴァンニがからかっているところにエルヴィーラが登場し、生き方を変えるべきだと忠告する。ジョヴァンニがまともに相手をしないので、エルヴィーラは諦めて去ろうとするが、玄関で突然悲鳴を上げて別の出口から逃げ去る。何事かと見に行ったレポレッロもやはり悲鳴を上げて戻ってくる。約束どおりに騎士長の石像がやってきたのである。石像はジョヴァンニの手を捕まえ、「悔い改めよ、生き方を変えろ」と迫る。ジョヴァンニは恐怖におののきながらも頑なにこれを拒否する。押し問答の後、「もう時間切れだ」といって石像が姿を消すと地獄の戸が開き、ジョヴァンニは地獄へ引きずり込まれる。

○そこへエルヴィーラ、アンナ、オッターヴィオにマゼットとツェルリーナが登場する。レポレッロの説明を聞き、一同は彼が地獄に落ちたことを知る。エルヴィーラは愛するジョヴァンニのために修道院で余生を送るという。マゼットとツェルリーナは家にもどってようやく落ち着いて新婚生活を始めようとする。一同、悪漢のなれの果てはこうになると歌い、幕が下りる。

音楽は人々に 平穏、勇気、希望を与えてくれる光！



とりアートオペラ「ドン・ジョヴァンニ」
総合プロデューサー・音楽監督／寺内 智子



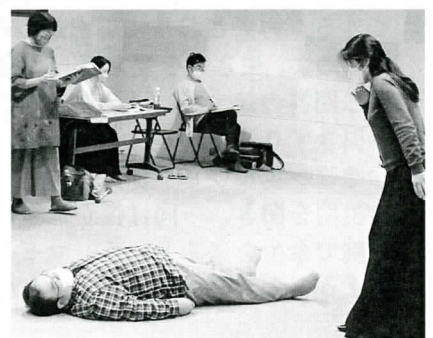
本日は第20回鳥取県総合芸術文化祭とりアート2022メイン事業・オペラ「ドン・ジョヴァンニ」の公演にお越しいただき心より御礼申し上げます。

とりアートオペラ公演実行委員会が主催するとりアートでのオペラ公演は「ボラーノの広場」「魔笛」「ヘンゼルとグレーテル」に続いて4作品目です。本来ならば今年の8月22日に上演する予定でしたが、一年延期となり本日の運びとなりました。

39年前に鳥取にてオペラ活動の礎を築いてくださった先生方の指導の下、私達は多くの舞台経験をさせてもらい育てていただきました。この度の公演ではこのオペラ活動を次世代へ継承するために公演運営のノウハウを教わりながら新メンバーで準備を進めて参りました。私もプロデューサーという重役を初めて経験し感じたことは、今まで歌い手として出演した時とは比べ物にならない「感謝」と「覚悟」の気持ちです。月並みな言葉かもしれませんが、のほほんと優柔不断な私にとって（見た目はそうでないらしい…）コロナ禍で求められる柔軟な対応と決断の連続は苦しい道のりでした。

初めてプレゼンテーションした企画が内定した喜びも束の間、コロナの規制により歌唱は感染確率が高いからと社会から歌うことが禁止され、キャストの出演辞退や練習自体が出来なくなり公演を中止せざるを得なかったこと、今年になってからはまさか戦争まで…（谷口さん帰って来られない？問題も一時浮上）。多岐にわたるご指導をいただいた先生方、支えていただいたとりアート関係者の方々、そして仲間の協力なしでは苦境を乗り越え、今日という日を迎えることは出来ませんでした。

2003年から続く鳥取県総合芸術文化祭での様々な活動は、この地で小さいながらも花を咲かせ種を残そうと頑張っています。このような時世であるからこそ芸術や音楽が人々の暮らしに平穏、勇気、希望を与えてくれる光であることを鮮明に認識しました。微力ながら私たちも愛するふるさと鳥取でみんなが笑顔になる花を咲かせていきたいと思います。そして、焼けた荒野にもいつか花が咲くことを願って…。



鳥取オペラ協会公演記録 (1999 ~ 2022)

1999 年度 「フィガロの結婚」 カウベルホール
 2000 年度 「魔笛」 カウベルホール
 2001 年度 「フィガロの結婚」 倉吉未来中心大ホール
 2002 年度 国民文化祭「ボラーノの広場」倉吉未来中心
 2003 年度 「ドン・ジョヴァンニ」 カウベルホール

2004 年度 とりアートオペラ公演 鳥取県民文化会館梨花ホール



2004. 10. 24(日) 14:00 鳥取県民文化会館梨花ホール於
「ボラーノの広場」

宮澤賢治原作 中村敬一脚本 新倉健作曲
 指揮／松岡究 演出／中村敬一
 出演 キュースト／吉田章一
 ファゼーロ／野津美和子
 ミーロ／恩田千恵 ロザーロ／尾前加寿子
 山猫博士／西岡千秋 テーモ／山田康之
 給仕／北村保史 巡査／加藤耕一
 床屋の親方／小椋美香子
 床屋の職人①／山尾純子
 床屋の職人②／塩崎めぐみ
 合唱 ボラーノ合唱団
 オーケストラ ミンクス室内オーケストラ

2005 年度 「アマールと夜の訪問者」 カウベルホール
 「バステアンとバステイエンヌ」鳥大アートプラザ
 2006 年度 「コシ・ファン・トゥッテ」 カウベルホール
 2007 年度 「アマールと夜の訪問者」 倉吉未来中心
 2008 年度 イソップ三部作「北風と太陽」「金の斧・銀の斧」
 「羊飼いと狼」 倉吉未来中心小ホール
 2009 年度 「フィガロの結婚」 米子市公会堂
 「電話」 鳥の劇場
 「バステアンとバステイエンヌ」
 倉吉交流プラザ視聴覚ホール
 2010 年度 「電話」 韓国江原道春川文化芸術館
 「フィガロの結婚」 鳥取市民会館
 イソップ三部作より「羊飼いと狼」
 倉吉交流プラザ視聴覚ホール
 2011 年度 「窓ウィンドウズ」とりぎん文化会館小ホール
 イソップ三部作より「北風と太陽」
 倉吉交流プラザ視聴覚ホール
 2012 年度 「こうもり」 倉吉未来中心大ホール
 2013 年度 「河童潭」 倉吉交流プラザ視聴覚ホール
 2014 年度 「アマールと夜の訪問者」
 倉吉交流プラザ視聴覚ホール

2015 年度 とりアートオペラ公演 倉吉未来中心大ホール



2015. 11. 15(日) 14:00 倉吉未来中心大ホール
「魔笛」

E. シカネーダー台本 W. A. モーツァルト作曲
 指揮／松岡究 演出／中村敬一
 出演 タミーノ／藤田卓也 パミーナ／寺内智子
 ザラストロ／渡邊寛智 夜の女王／松田千絵
 パパゲーノ／吉田章一
 パパゲーナ／野津美和子
 モノスタス／谷浩一郎 弁者／西岡千秋
 僧・武士①／松本厚志
 僧・武士②／山田康之
 ダーメ①／佐々木まゆみ ダーメ②／鶴崎千晴
 ダーメ③／塩崎めぐみ
 クナーベ①／小椋美香子
 クナーベ②／小倉知子 クナーベ③／米澤幸
 合唱 魔笛合唱団
 オーケストラ アザレア室内オーケストラ

2015 年度 「アマールと夜の訪問者」
 韓国江原道洪川文化芸術会館

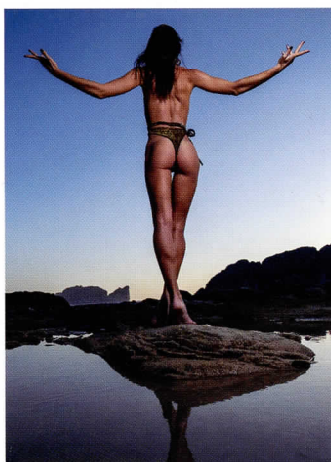
2018 年度 とりアートオペラ公演 倉吉未来中心大ホール



2018. 12. 24(月・休日) 14:00 倉吉未来中心大ホール
「ヘンゼルとグレーテル」

E. フンパーディンク作曲
 指揮／大勝秀也 演出／中村敬一
 出演 ヘンゼル／寺内智子 グレーテル／中原美幸
 ベーター（お父さん）／堤 智洋
 ゲルトルート（お母さん）／鶴崎千晴
 魔女／吉田貞美 眠りの精／尾前加寿子
 霧の精／松田千絵
 合唱 とりアートヘンゲル合唱団
 オーケストラ アザレア室内合奏団

2022 年度 とりアートオペラ公演
 鳥取県民文化会館梨花ホール
「ドン・ジョヴァンニ」 W. A. モーツァルト作曲



人間の生き方と

人間の業がせめぎ合い

勸善懲惡の中で

崩壊していく

ドン・ジョヴァンニ！

とリアートオペラ公演実行委員会組織

下記の団体で実行委員会を構成
鳥取オペラ協会・鳥取県ピアノ指導者協会・アザレア音楽祭

芸術監督	寺内 智子	鳥取オペラ協会副会長・総合プロデューサー
実行委員会会長	計 羽 孝 之	鳥取オペラ協会会長・アザレア音楽祭会長
実行委員会副会長	尾 坂 俊 恵	鳥取県ピアノ指導者協会会長・アザレア音楽祭委員
事務局 長	鈴木百百子	鳥取オペラ協会理事・アザレア音楽祭委員
委 員	小椋美香子・小 倉 知 子・尾 坂 俊 恵・尾 前 加 寿 子・谷 岡 弘 栄・ 鶴 崎 千 晴・寺 内 智 子・計 羽 孝 之・松 田 千 絵・三 好 芳 子・ 山 田 康 之・吉 田 章 一・渡 邊 寛 智	